

湊江小学校 外国語活動・外国語研究通信

第7号

令和3年11月

第7回目の研究全体会は、本校研究推進委員長、深谷久美教諭が資料を作成し、評価についての研修を行いました。評価についての基本的な考え方や、実際のやり取りを見ての評価を行いました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

1 学習評価の基本的な方向性（どの教科においても）

- (1) 児童の学習改善につながるものにしていくこと
- (2) 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- (3) これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

→どの教科においても言えることは、『評価のための評価』にならないようにすることが大切。



2 外国語科の評価規準の作成にあたって

【多様な評価材料について】

児童を励まし、指導に生かせるものにする。自己肯定感や有能感・自律性を高める評価方法を用いる。

- (1) テスト リスニングを含む
- (2) 簡単な語句や文を書く小テスト、インタビューテスト(面接)、スピーチなどのパフォーマンス評価
→ルーブリックの作成(内容、理解度、態度、努力など) →児童と評価規準を共有
- (3) 活動の観察: 行動、活動、発表の観察、VTR、ワークシート
- (4) 自己評価・相互評価
- (5) ポートフォリオ: 成果や評価内容を蓄積、整理する。

思考・判断・表現を評価する場面は、必ず目的、場面、状況を設定していなければならない。

→言語活動をしていないと、思考判断表現の評価はできない。どの学校でも、最終活動では言語活動をしようとしている。しかし、最初(第1時)から言語活動ができるように指導することが必要。

【主体的に学習に取り組む態度】

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

☆記録に残す評価

- ・観点別学習状況を記録に残す場面等を精選し、評価時期や場面、評価方法を考えておく。
- ・学期あるいは、一年を通して、5領域3観点をもれなく評価するよう計画を立てる。
- ・また、記録に残す評価は、単元の後半に行うのが基本となる。

☆記録に残す評価以外

- ・日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して、指導の改善に生かすことが重要である。
- ・記録に残す評価の場面以外にも児童を観察したり、振り返りカードから読み取ったりして、児童の学習状況を把握する。
- ・評価は、アドバイザーと協力して行う。

3 振り返りカードの活用

児童の記述から、自らの学習を調整しようとする意思があるか、また、粘り強い取り組みを行おうとする意思があるかを見取っていくことが大切である。

ただし、その際には振り返りシートの記述のみに頼らないことも大切である。授業の中で「しっかりと質問に答えていた姿」や「実際に書いていた姿」、「聞き返したり、さらに質問したりしている姿」と関連付けながら、その行動の背後にある児童の一連の意思を「振り返りカード」から推し量ることが大切である。

本校では、田縁先生からご指導いただいた4段階の振り返りシートを活用している。

【4段階設計】

- 1 まだ自信をもってできない(できるようになりつつある)
- 2 自信がなくても何らかの足場掛けがあればできる
(友達や先生と一緒に、～を見れば、準備すれば、じっくり考える時間があれば)
- 3 多くの学習者にとって目標となる段階(教師が本時で達成できだろうと考える段階)
- 4 自信のある児童を飽きさせない(挑戦的課題)工夫をしながら



4 実際に評価をしよう

(1) 話すこと(やり取り)

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

小学校外国語・外国語活動 P56・P57参照)

役割演技をし、評価を決める活動を行った。理由についても話し合った。

単元: When is your birthday?

観点	評価規準	児童④	児童⑤	児童⑥	評価の理由
知識・技能	誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。				
思考・判断・表現	<u>自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために</u> 、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。				
主体的に学習に取り組む態度	<u>自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために</u> 、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。				

児童④: 既習表現を使い、相手に伝えようとしているが、言うときにつまったり、スラスラと言えなかったりすることがある。

児童⑤: 相手に尋ねたり、答えたりすることがおおむねできている。

児童⑥: 評価規準を満たし、相手とのやりとりがしっかりとできている。質問もでき、答えを引き出している。



- 児童④: 知識・技能 B 思考・判断・表現 B 主体的に学習に取り組む態度 B
- 児童⑤: 知識・技能 A 思考・判断・表現 A 主体的に学習に取り組む態度 B
- 児童⑥: 知識・技能 A 思考・判断・表現 A 主体的に学習に取り組む態度 A

学年ごとに話し合い、どう評価をしたか出し合った。一人ひとりの意見も違うため、集約すること自体が難しかったが、上記のような評価をしたという意見が多かった。

正解は・・・(「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」外国語・外国語活動 P56・P57参照)

児童④:知識・技能 B 思考・判断・表現 C 主体的に学習に取り組む態度 B

児童⑤:知識・技能 B 思考・判断・表現 B 主体的に学習に取り組む態度 B

児童⑥:知識・技能 A 思考・判断・表現 A 主体的に学習に取り組む態度 A

→既習表現を使い、伝え合いができていても評価はB。より具体的な表現や質問ができて初めてA評価がつく。B評価の幅がものすごく広い。

(2) 話すこと(発表)

実際の児童が発表している様子を動画で見て、評価をする活動を行った。理由についても話し合った。

単元名 Welcome to Japan 5年

観点	評価規準	児童①	児童②	児童③	評価の理由
知識・技能	〈知識〉日本文化に関する語句、I like～. We have～. We can～. It's～.の表現について理解している。 〈技能〉日本の四季や文化などに関する語句、I like～. We have～. We can～. It's～.などを用いて、日本の魅力について話す技能を身に付けている。				
思考・判断・表現	日本在住の外国の知り合いの家族が日本に来るのを楽しみにできるように、日本の四季や文化について、話している。				
主体的に学習に取り組む態度	本単元の評価規準は「日本在住の外国の知り合いの家族が日本に来るのを楽しみにできるように、日本の四季や文化などの魅力について話そうとしている。」となるが、次単元と合わせて、記録に残す評価を行う。				

児童①:Hello. My name is〇〇. We have summer festival. Because yukata is beautiful. I like cotton candy and takoyaki. It's delicious. Please come to Japan in summer. Bye.

児童②: Hello. My name is〇〇. Season… it's summer. It's summer festival. Food is water melon and melon and sherbet and takoyaki. Second season is winter. Snow ball party. It's fan. Bye.

児童③:I like spring. We have cherry blossom viewing in spring. It's beautiful. You can eat it's hanamidango. Hanamidango is red,white,green. It's colorful and sweet and delicious.

児童①:知識・技能 B 思考・判断・表現 B 主体的に学習に取り組む態度 B

児童②:知識・技能 C 思考・判断・表現 C 主体的に学習に取り組む態度 B

児童③:知識・技能 A 思考・判断・表現 A 主体的に学習に取り組む態度 A(B)

という意見が多かった。児童①は既習事項を使い表現できてはいたが、一部言い間違いがあったり、それ以外の工夫がなかったりしたためA評価はつかない。児童②意欲は買いたいが、最終活動にも関わらず、既習事項を使うことができずに単語を並べるだけになってしまうなど、習得できていない部分が大きかった。児童③はお花見について紹介し、団子のことを詳しく説明する様子が相手に魅力を伝えようという意欲の表れとしてとらえた。また、相手意識をもってボードを指さして説明するなど工夫がみられた。

人によって評価のばらつきがかなりあった。学年でしっかりと話し合い、事前にどう評価するかを決めてから授業を進める必要がある。また、どう指導しそれがきちんと活かされているかという、指導と評価の一体化も重要となる。学年内だけでなく、中・高学年の教員がお互いに情報交換をして評価について考えていく。



5 外国語活動の評価について

外国語活動の評価も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」という三つの身に付けるべき資質・能力に合わせた観点を設定している。これらの観点に沿って、行動観察、ワークシートの点検、振り返りシートの点検・分析等で評価を行う。

様々な場面を通して評価することが大切だが、毎時間の評価は見取りが難しい。評価場面の計画をしっかりと立てて、その単元の指導を始める必要がある。